



写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 36 □

明治30年代の崇福寺竜宮門

技巧凝らした唐風建築

明治33（1900）年、竹下佳治が撮影した黄檗宗の聖寿山崇福寺（今龍巖寺）の山門（大門）である。壁の傷みが激しいので、撮影時期は明治34年の修繕直前と思われる。中央の門と、左の如意および右の吉祥の袖門があるので、三門とも呼ばれた。

最初の山門は寛文13（1673）年の創建で、造りは単層屋根の八脚門であったと推測されている。これは明和3（1766）年に西古川町から出火した火事で類焼した。文化12（18）

15）年に再建された山門も、文政9（1826）年に台風で倒壊している。写真に写る建物は、嘉永2（1849）年に唐通事遊龍彦十郎と鄭幹輔の発願で再建された三門である。このとき中国趣味が濃厚な赤色の極彩色の楼門となり、竜宮門と呼ばれるようになった。寺中には中国で切り組み、唐の大工が建立した建物が多いなかで、全体の意匠に技巧の限りを凝らした最も唐風なこの楼門は、日本人の棟梁大串五郎平と脇棟梁森乙次郎、同卯十郎により建築された。

このとき石積み3段の基礎の上に、楼閣の基部を瓦と石を混ぜて積み上げ、桃色のしつこいを塗り固めて、中央の通り抜けと袖門を設けた。上部には入り母屋造り、本瓦葺き、透かしの高欄付き浜縁を巡らす、腰屋根付きの楼閣が造設された。正面に隠元禪師が書いたとされる「聖寿山」の扁額が掛けられ、窓は上枠が花の形をした華頂窓である。屋根のれんがには「海不揚波」と航海安全の文字が浮かされ、屋根上にはしやちほこと宝珠が飾られ、豪華である。

明治39（1906）年に特別保護建造物に指定され、昭和39（1964）年に国宝に指定された。この山門は「二の門」となる。こちらは昭和28（1953）年に国宝に指定された。

（長崎外国語大学長）

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（<http://www.nagasaki-igo.ac.jp/reclas/newspaper/>）で見ることができま



長崎外国語大のホームページにアクセスできるQRコード

随時掲載します